

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 26

学校名・団体名	立命館小学校
HPアドレス	<a href="http://www.ritsumei.ac.jp/primary/">http://www.ritsumei.ac.jp/primary/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	京の杜プロジェクト～桜がつなぐ架け橋～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>世界遺産「醍醐寺」を舞台とする「京の杜プロジェクト～桜がつなぐ架け橋～」の活動に参加し、クローン桜の苗木を育てることを通じて京都の歴史を学ぶ。醍醐寺内に放置されている落葉を堆肥化することで循環型社会への関心を寄せ、最先端技術「バイオテクノロジー」で科学に触る。また、その桜を育て、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の子どもたちと「醍醐のクローン桜」を介し交流を深めていくことで、共によりよい社会を目指そうとする心情や感情を育む。</p>	

1. 5月17日(水)「醍醐のクローン桜」贈呈式(醍醐寺から立命館小学校へ)

醍醐寺の方3名、KBS京都ラジオの方2名、住友林業の方2名が来られ、「醍醐のクローン桜」の贈呈式を実施しました。

この日から、鉢植えのクローン桜を児童玄関前に運び、水やり当番を決め、子どもたちによる当番活動を開始しました。実際にクローン桜が届いたことで、被災地への思いが強くなったように感じました。

2. 11月までの当番活動を通して

児童玄関前にクローン桜を置いたおかげで、全校児童の目にもとまることになり、たくさん子どもたちが、桜に「おはよう」「さようなら」といった声かけが自然におこるようになりました。

桜を届ける菊田小学校へ、京都のことや立命館小学校のことを紹介するポスター作りに取り組みました。全員が何らかの記事を受け持ち、全員で京の杜プロジェクトに関わっているという意識を高めることにつながりました。

秋になると、桜は紅葉を始め、葉が一枚、一枚と落ち始めました。子どもたちは紅葉の美しさを喜びつつ、葉が落ちていく様子を心配気に見守っていました。

3. 7月26日(水)~7月27日(木)

三学期の贈呈式に向けて、福島県いわき市立菊田小学校へ、ご挨拶と下見に出かけました。空港からの所要時間、見学場所を確定し、菊田小学校の担任の先生とは、植樹だけでなく、学校間交流も含めて楽しい時間になるよう打ち合わせを行うことができました。

4. 1月16日(火)

KBS京都の方が来られ、学校から生出演という形で代表児童のコメントを収録してくださいました。「葉っぱが落ちて心配だけど、枝や幹が育っている感じがします」「福島の人に届けてもらうのが楽しみです」という声を放送していただきました。

5. 3月2日(金)

桜とのお別れの会「出立式」を行いました。醍醐寺の僧侶の皆さんに祈禱をしていただき、児童は今までの活動を振り返りました。福島に向かう代表児童らは、「みんなで大切に育てた桜をしっかりと菊田小学校に届けてきます」と話しました。

6. 3月8日(木)~3月9日(金)

一泊二日で、いよいよ被災地へクローン桜を届けることになりました。代表児童8名と教員2名で福島県いわき市立菊田小学校へと向かいました。醍醐寺、住友林業、KBS京都の方々も同行して下さいました。KBS京都の方には代表児童の声を収録していただきました。また、テレビ朝日の方も来られ、桜を福島に送るプロジェクトについて撮影をされ、代表児童がインタビューを受けました。「桜を届けることで福島に元気を届けたい」「被災地の様子をしっかり見てきたい」と、子どもたちは決意を述べていました。

菊田小学校では、お互いの学校紹介をしたり、本校児童は「ソーラン節」を菊田小学校児童は「ソーラン節」やダンスを披露し合いました。植樹後も給食を一緒にいただき、すっかりうちとけた様子でした。植樹には、福島の新聞社やテレビ局もかけつけて下さり、複数のメディアによって今回の取り組みを広めていただくことができました。

植樹の後、太平洋に面した海洋施設「アクアマリン福島」へ移動し、海に向かって黙禱を捧げました。このあたりは津波が押し寄せた場所であり、その当時の話を聞くことができました。

学校に戻ってから、代表児童8名による、学年児童(111名)に向けて、菊田小学校での交流の様子や被災地の様子についての報告会の場を持ちました。

今後に向けて

実際に福島訪問した子どもたちからは、今後も交流を継続したいとの声が上がっています。定期的に手紙のやりとりを続ける中で、桜の成長を見守っていきたいと考えます。また、現在、3年生児童がプロジェクト1年目の活動を行っていますので、「京の杜プロジェクト」を継続していく予定です。